



和漢植物講座



INDEX

- | | | |
|-------|------|---------------------|
| 生薬名1 | 仙 茅 | [センボウ/キンバイザサ] |
| 生薬名2 | 紅 花 | [コウカ/ベニバナ] |
| 生薬名3 | 枸杞子 | [クコシ/クコ] |
| 生薬名4 | 莪 朮 | [ガジュツ/紫ウコン] |
| 生薬名5 | 田七人參 | [デンシチニンジン/サンシチニンジン] |
| 生薬名6 | 鬱 金 | [ウコン/秋ウコン] |
| 生薬名7 | 石菖蒲 | [セキショウブ] |
| 生薬名8 | 蓮子心 | [レンシシン/ハス胚芽] |
| 生薬名9 | 高麗人參 | [コウライニンジン/オタネニンジン] |
| 生薬名10 | 大 棗 | [タイソウ/ナツメ] |
| 生薬名11 | 忍 冬 | [ニンドウ/キンギンカ/スイカズラ] |
| 生薬名12 | 甘 草 | [カンゾウ] |

はじめに

人類の長い歴史の中で、植物・動物・鉱物などの天然産物から、病気を治してくれる数多くの「薬」を見つけ、その知識を伝承し蓄積してきました。このような自然界から採取された「薬」になるものを利用しやすく保存や運搬にも便利な形に加工したものを生薬(しょうやく)と言います。そして、薬効を高めるために生薬を複数組み合わせたものが漢方薬です。

漢方薬の“漢方”とは、「漢(中国)から伝来した」という意味で、つまり「中国から伝来した医薬品」という意味です。漢方薬は、主に植物の根・茎・葉・皮などをはじめ動物・昆虫・鉱物など、薬効の認められる自然界に自生するあらゆる天然の薬用資源(生薬)を患者の病状や体調に合わせて調合し、病気の治療や予防に用いる医薬品です。漢方薬は数種から十数種の生薬を組み合わせる用いることが多く、お茶のように煎じて服用したり、抽出濃縮したエキスを顆粒剤や錠剤・丸剤にして服用するなど様々な方法があります。

生薬名1 仙茅 [センボウ/キンバイザサ]

学名 Curculigo orchioides Gaerth.

性・味 性は熱(ねつ)、味は辛(しん)

漢方薬理 温腎壮陽(おんじんそうよう)・強筋骨(きょうきんこつ)
祛寒湿(きょかんじつ)



古くから中国では仙薬(仙人のように不老長寿を得る薬)とされ、強精薬として使われていた。西域(シルクロード)の婆羅門僧(ばらもんそう)が玄宗皇帝(げんそうこうてい)にこれを用いる方法を教えたのが始まりだといわれている。インポテンツなどの性機能低下、お年寄りの夜間尿、老化防止、冷え症、婦人の更年期による諸症状に効果がある。

生薬名2 紅花 [コウカ/ベニバナ]

学名 Carthamus tinctorius

性・味 性は温(おん)、味は辛(しん)

漢方薬理 活血祛瘀(かっけつきよお)・通経止痛(つうけいしつう)



漢方医学では、血行を盛んにして体内に鬱血した古血(ふるち)(瘀血(おけつ))を取り除く薬として古くから常用されている。最近の研究で、紅花に含まれる成分には冠状動脈を拡げ、血圧やコレステロール値を下げる作用があることが証明されており、動脈硬化・心筋梗塞・狭心症・高血圧など、心血管系の疾患に用いられ、非常に高い臨床効果がある。また、鎮痛作用も強く、捻挫や打撲、関節炎などの痛みに対しても高い臨床効果がある。

生薬名3 枸杞子 [クコシ/クコ]

学名 Lycium chinense

性・味 性は平(へい)、味は甘(かん)

漢方薬理 補腎益精(ほじんえきせい)・養肝明目(ようかんめいもく)・潤肺止咳(じゅんばいしがい)



古来より滋養強壯の薬としてよく知られ、長寿の妙薬。

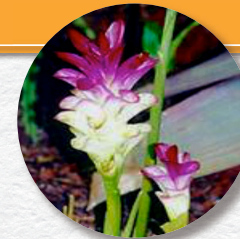
滋養強壯、足腰の弱り、視力減退、めまい、老化防止、疲労回復、精神安定、不眠、肝機能の強化(肝細胞の新生促進、肝細胞内の脂肪沈着抑制)、免疫力向上、コレステロール降下、美白作用など幅広い効能・効果がある。

生薬名4 莪朮 [ガジュツ/紫ウコン]

学名 Curcuma zedoaria

性・味 性は温(おん)、味は苦(く)・辛(しん)

漢方薬理 行血破瘀(こうけつはお)・攻逐積滯(こうちくせきたい)



血行を促進すると同時に、強い駆瘀血(くおけつ)(瘀血(おけつ))を駆逐(くちく)の作用により、血腫や凝血塊などを吸収除去し、瘀血(おけつ)による腫瘍などを軟化させる効果が知られている。最近の研究では、がんに対する効果が多く報告されており、子宮頸がんに対する効果やがん細胞そのものの増殖を抑制したりアポトーシスを起こすなど、多くの抗腫瘍効果が認められている。

生薬名5 田七人參 [デンシチニンジン/サンシチニンジン]

学名 Panax notoginseng Berk.

性・味 性は温(おん)、味は甘(かん)・微苦(びく)

漢方薬理 化瘀止血(かおしけつ)・消腫定痛(しょうじゆていつう)



非常に高いその治療効果から別名「不換金」(ふかんぎん:金にも換えられないほど貴重)とも呼ばれている。血液の流れを生き活きとさせる活血(血液循環の改善)作用があり、組織の微小な血流を改善することで患部の瘀血(病理産物)を吸収除去する作用がある。微小な血流を改善・活発にすることから様々な臨床効果が報告されており、脳梗塞、心筋梗塞、肝硬変の治療に用いられる。肝機能改善薬として有名な「片仔癀(へんしこう)」はその成分の85%が田七人參。

生薬名6 鬱金 [ウコン/秋ウコン]

学名 Curcuma longa

性・味 性は寒(かん)、味は辛(しん)・苦(く)

漢方薬理 活血化瘀(かっけつつかお)・理気止痛(りきしつう)・疏肝解鬱(そかんかいつう)・利胆退黄(りたんたいおう)



ウコンの有効成分クルクミノイドは強い抗酸化作用を持ち、胆汁分泌促進作用により肝機能の強化やコレステロール低減などによる生活習慣病の予防効果がある。二日酔いにウコンが効くのも肝臓に働きかけているためです。また、シミ・ソバカスなどメラニンの産生を阻害する作用があり、最近の研究では、脳のシミともいわれるアミロイドβを分解除去する働きも報告されている。クルクミノイドはウコンの中でも秋ウコンに多く含まれており、春ウコンの10倍以上も多く含まれている。

生薬名7 石菖蒲 [セキショウブ]

学名 Acorus gramineus

性・味 性は温(おん)、味は辛(しん)・苦(く)

漢方薬理 醒神健脳(せいしんけんノウ)・除痰開竅(じょたんかいきやう)
化湿開胃(かしつかい胃)



日本の民間では、胃炎、発熱、ひきつけ、創傷などの治療に菖蒲の根を煎じたものを内服したり外用したりして利用していた。また、端午の節句に菖蒲湯に入ることによって体の邪気を払う風習もよく知られている。中国では、昔から頭が良くなる薬草として知られ、健忘症に用いられてきた。現代の研究からも、石菖の成分に認知機能を改善する効果があることが確かめられており、認知症、意識障害、耳鳴、難聴に効果がある。

生薬名8 蓮子心 [レンシシン/ハス胚芽]

学名 Nelumbo nucifera

性・味 性は寒(かん)、味は苦(く)

漢方薬理 清心火(せいしんか)・安神(あんしん)



漢方では“心の火”を清める、つまり、心を落ち着かせる(精神安定・鎮静)働きがあるとされている。最近の研究からも、中枢神経(脳)に対して良い作用(向精神作用)があることが多数報告され、鬱病や不安神経症、不眠などに効果のあることが確認されている。また、蓮胚芽の成分には関節炎などの「痛み」に対して強い鎮痛作用があることが確認されており、動物実験でのデータではアスピリンより強い鎮痛作用のあることが報告されている。まさに「心と体の両面を癒す」不思議な薬草素材である。

生薬名9 高麗人參 [コウライニンジン/オタネニンジン]

学名 Panax ginseng C.A.Mey.

性・味 性は微温(びおん)、味は甘(かん)・微苦(びく)

漢方薬理 補気固脱(ほきこだつ)・補脾気(ほひき)・益肺気(えきはいき)・
生津止渴(せいしんしかつ)・安神益智(あんしんえきち)



漢方では古くから不老長寿の薬として利用されてきた。疲労回復、スタミナ補給、病中病後の体力回復、滋養強壮、虚弱体質の改善、血糖降下作用、認知機能低下の予防・改善、生活習慣病の予防・改善、血行促進、抗ストレス、冷え性改善、性機能(勃起障害:ED)の回復、不妊、抗ガン作用など様々な効果がある。

生薬名10 大棗 [タイソウ/ナツメ]

学名 Ziziphus jujuba

性・味 性は微温(びおん)、味は甘(かん)

漢方薬理 補脾和胃(ほひわい)・養心安神(ようえいあんしん)・
緩和薬性(かんわやくせい)



古来より中国では五果(価値の高い五種類の果実)といわれる果実の一つで、その中でもナツメは栄養が豊富で、「1日3個ナツメを食べれば年を取らない」という諺があるほど、老化防止、美肌効果にすぐれている。強壮作用、鎮静作用、肝臓保護作用、抗ガン作用、筋力増強作用、抗アレルギー作用がある。

生薬名11 忍冬 [ニンドウ/キンギンカ/スイカズラ]

学名 Lonicera japonica

性・味 性は寒(かん)、味は甘(かん)

漢方薬理 清熱解毒(せいねつげどく)



常緑性で冬を通して葉を落とさず冬場を耐え忍ぶ事からこの名がつけられた。蕾は、金銀花(きんぎんか)という生薬名で、秋から冬の間の葉茎は忍冬(にんどう)という生薬名となっている。ともに抗菌作用や抗ウイルス作用、抗炎症作用、解毒作用、利尿作用などの効能があり、感冒やインフルエンザ、化膿性皮膚疾患に効果がある。

生薬名12 甘草 [カンゾウ]

学名 Glycyrrhiza L.

性・味 性は平(へい)、味は甘(かん)

漢方薬理 補脾益気(ほひえつき)・清熱解毒(せいねつげどく)・
潤肺止咳(じゅんばいしがい)



甘草は、他に配合する複数の生薬の働きを調和したり、薬性を緩和したりする目的で、殆どの漢方処方(漢方薬)に配合されている。甘草自身の効能には、抗炎症作用、抗アレルギー作用、解毒作用、胃酸分泌抑制作用などがあり、胃潰瘍などの消化器潰瘍に効果がある。また、最近の研究では、甘草の成分(フラボノイド)に抗肥満効果があることが報告されている。